

校長室だより

令和8年4月18日(土)
第3号
十日町市立中条中学校校長室

中条中学校の学習指導について

校長室だよりでは、中条中学校が取り組んでいることなども紹介していきます。保護者や地域の皆様にも是非ご理解・ご支援をお願いします。今回は学習指導についてです。

新潟県学校教育の重点と学習指導要領の関わり

新潟県では、年度ごとに各学校に重点的に取り組んでほしい内容を「学校教育の重点」として示しています。また、中学校の教育は国が定める「学習指導要領」に基づいています。文部科学省は「学習指導要領」を「全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程(カリキュラム)の基準です。生徒たちの教科書や時間割は、これを基に作られています。」と説明しています。この2つの内容を踏まえ、中条中学校が今年度どのように学習指導に取り組むかをお知らせします。



令和8年度新潟県学校教育の重点の学習指導では、「個別最適な学びと協働的な学び」「学習習慣」「学習評価」の3点を挙げています。学習指導要領が求めているのは「**主体的・対話的で深い学び**」です。これらの学びが求めている姿をまとめます。

※「学習習慣」「学習評価」については次の機会でお話ししたいと思います。

「主体的・対話的で深い学び」とは

これは、先生の話聞くだけでなく、自分で考えたり、友達と話し合ったりしながら、学びを少しずつ深めていくことを大切にする学びです。

学んだことを振り返り、「分かった」「できた」という経験を積み重ねることで、学ぶことへの自信や意欲につながっていきます。



文部科学省は、「主体的・対話的で深い学び」を、「全ての子どもに確実に実現するための具体的な考え方が、『個別最適な学び』と『協働的な学び』である」と説明しています。

「個別最適な学び」とは

一人一人に合った学びのことです。

子どもそれぞれの理解の速さや得意・不得意、興味に応じて学び方を工夫します。

分かるところは先へ進み、苦手なところは丁寧に取り組めるようにします。自分のペースで安心して学べることを大切にします。

「全ての子どもが取り残されない学び」を実現するための大切な視点として説明しています。

「協働的な学び」とは

人と関わりながら学ぶことです。

友達と話し合ったり、考えを伝え合ったりしながら学びます。自分とは違う考えに触れることで、理解が深まります。

一人で学ぶだけでなく、仲間と学ぶ経験を大切にします。

「個別の学びが孤立しないようにするために欠かせない学び」としています。一人一人に合った学びのことです。

中条中学校では「学びのススメ」を作成し、1年生に配布・指導しています。その内容を紹介します。「学びのススメ」には「主体的・対話的で深い学び」について説明しています。その中に、「個別最適な学び」「協働的な学び」につながる内容が多く含まれています。

「主体的な学び」について

● 自ら学ぶ

中学校の3年間の中で、「自立」「自律」の学習習慣を身に付けていくことが大切です。

この「自立」「自律」の学習習慣とは、誰かから課題を与えられなくても、自分にとって意義のある学習内容を自ら考え、方法を工夫しながら実行していけるようになることです。



学習で大切なことは、「自ら学ぶこと」です。自分で課題を見付ける、自分から学習内容を考える、気になったことを調べてみる（知的好奇心を生かす）などの取組が大切です。しかし、学びを深めるには、まず基礎的な力を身に付けることです。中条中学校では、家庭学習に1人1台端末の「ドリルパーク」を利用した学びを推奨しています。基礎的な知識を身に付ける手段として是非活用ください。「継続は力なり」です。

● 関わり合いを通して学び続ける 学ぶ楽しさを感じる【主体的な学び】

- ・ 仲間と協力して取り組むことで、一体感や団結力が高まる。
- ・ 互いの意見を交流することで、学習に積極的に参加することができる。
- ・ 自分たちの力で課題を解決することで達成感を味わえ、粘り強く学習を継続することができる。

「ドリルパーク」は個別最適な学びのツールです。

達成感こそ、粘り強く学習に取り組める薬です。最初から難しいものに挑むと達成感を味わうことは難しいです。そのためスモールステップで少しずつ達成感を味わえる「ドリルパーク」はおすすめです。各ご家庭では是非取り組んでほしいと思います。そして、取り組む姿があればご家庭で評価してあげてください。

「対話的な学び」について

● 関わり合いを通して学び続ける 考えを広げる【対話的な学び】

- ・ 仲間と一緒に取り組むことで、新しいことに思い切ってチャレンジすることができる。
- ・ 互いに足りない点を補い合ったり、教え合ったりできる。⇒協働的な学び
- ・ それぞれの違う経験に基づいた、いろいろな意見やアイデアが集まる。

「対話」からお互いの考えを補う、教え合う、違う考えに触れるなどが「協働的な学びにつながります。

中条中学校学習の柱の3 自主協働には

(1) 考えを広げる【対話的な学び】

- ① 間違いや失敗をおそれず、進んで発言しよう。それは、他の人のヒントにもなる。
- ② 「教えるものは二度学ぶ」の心構えで、みんなのために力を発揮しよう。
- ③ 自分の意見との共通点や相違点を考えながら、他の人の意見を聞こう。
- ④ 他の人の意見には、積極的に反応し、質問をして話し合いを深めていこう。

※これらの4つは「協働的な学び」の取組です。

間違いを冷やかしたり、笑ったりしないことが大切です。当校はそれができる生徒が多くいます。

「主体的・対話的で深い学びの実現」のために、中条中学校では生徒の話し合いの場面を重視しています。話し合いが機能するためには、相手の話をよく聞くこと、否定しないこと、最後までよく聞くことが大切です。また、相づちを打ちながら聞くことも大切です。授業だけでなく様々な場面で取り組みます。